

(一社) 自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO)

上田市：農林業とまちの連携によるエネルギーシフト地方都市のモデル作り ～バイオマス暖房とエコロジー建物、ソーラーシェアリング～

活動地域  長野県

つづける助成
3年目
実践

イベントの延べ参加者数	540人
ソーラーシェアリング発電所開始	4か所
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	85%



G20地域会議。多くの参加者を得た

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

再エネの事業は収支予測が立てやすく進みやすいが、断熱など省エネの事業や、大組織の意思決定、許認可が必要な事業は、調整などに時間がかかった。

■ 工夫した点

現状把握と将来ビジョンの共有が意思の調整に必要な点と考え、地域の現状（人口、経済、社会、環境など）と予測を専門家に分析いただいて発表、意見交換や協議を重ねた。

課題

上田は寒冷地だが、建物の断熱があまり進んでおらず、暖房に多量の化石燃料を使う。太陽光の可能性は大きいですが、適地が少ない。山林資源のバイオ熱利用も不十分である。

目標

農地／山林に囲まれながら都市中心街もある上田市の特色をいかしながら、市内でエネルギーが循環するまちづくりが行われる。エネルギー利用の効率化と再エネの発展を行う。

活動内容と成果

上田市役所がゼロエネルギービルディングを目指し改築が始まった。また、木質バイオマス利用を行うため、調査・見積りを始めた。断熱のDIY施工を地域の集会所などで行い、効果を実感できるようにした。さらに、延べ540人が参加した連続セミナーで、エネルギーの地域循環が、地域の人口減少など他の課題の解決にもつながることを伝えられた。ソーラーシェアリングの新たな発電所がさらに3件開始され、合計10か所が稼働し、現在支援中の案件も10件以上あり、農業や林業との調和の取れたエネルギー事業が広がっている。



新稼働のソーラーシェアリング施設の一つ

全助成期間の活動を振り返って

日照時間が長く太陽光の可能性が非常に高い地域で、屋根上ソーラーの拡大に加え、農業と共存できるソーラーシェアリングの実例を10か所以上開始できたのは大きな成果だった。

また、断熱が省エネだけでなく快適性の向上にも役立つことをモデルケースで伝えることができ、市役所の改築にもいかされた。バイオマス熱利用は台風被害で実行が中断されたが、実現に向けた調査を行えた。



学校断熱DIYワークショップに向け調査中

〒386-0018
長野県上田市常田2-27-17
電話：0268-75-5868
E-mail：info@neco.or.jp
HP：http://neco.or.jp



今後の展望

実行可能で効果のある計画を作るために、地域のエネルギー関連のデータを綿密に調査する。どこに電気／熱／交通の需要が集中しているか、また、自然エネルギーのポテンシャルはどこにあるか、その間の供給網（シェア）は何があるか、などのデータである。その上で専門家も交え、計画案を立案する。同時に、住民へのヒアリングや課題出しワークショップを行い、地域の関与を心かける。